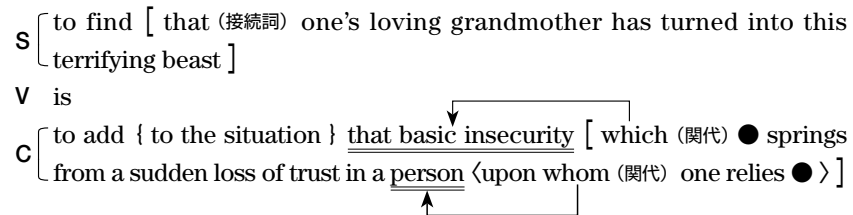


例題 1

To encounter a wolf is frightening enough, but to find that one's loving grandmother has turned into this terrifying beast is to add to the situation that basic insecurity which springs from a sudden loss of trust in a person upon whom one relies.

Notes insecurity 「不安感」 spring from 「～に起因する」 rely (up) on 「～を頼りにする」

but 以下は、to find から beast ままでが主語 (to 不定詞: 名詞用法)、is が述語動詞、to add 以下が補語 (to 不定詞: 名詞用法) で、「～することは...することである」という構文になっています。



動詞 add には前置詞 to と結びつく用法があり、その場合、自動詞と他動詞とで意味が異なります。

- (1) add to + 名詞 「<名詞>を増す」 ⇨ <自動詞 + 前置詞> + 名詞
- (2) add + 名詞1 + to + 名詞2 「<名詞1>を<名詞2>に加える」
⇨ 他動詞 + 名詞 + 前置詞 + 名詞

さらに注意を要するものとして、(2) の<名詞1>が重点情報であるため後ろに回り、「add { to 名詞2 } 名詞1」となるパターンがあり、それがこの例題文です。

この場合、「add to 名詞」と並ぶため、一見(1)と同じようですが、その場合、必要な名詞は1つだけのはずが、2つ名詞が登場する(<名詞1>は他動詞 add の目的語、<名詞2>は前置詞 to の目的語)ことから、(2)だと判断できます。

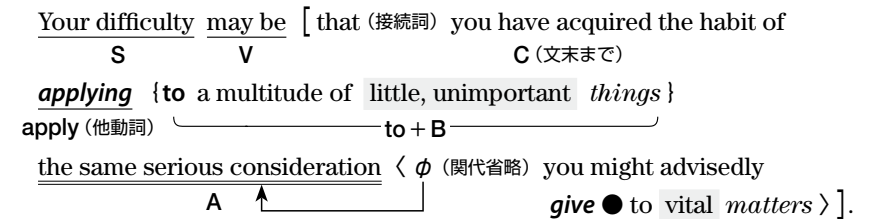
例題 2

Your difficulty may be that you have acquired the habit of applying to a multitude of little, unimportant things the same serious consideration you might advisedly give to vital matters.

Notes acquire 「～を身につける」 a multitude of 「多くの～」 advisedly 「...した方が賢明で」

動詞 apply も add 同様、(1) apply to ～ 「～にあてはまる」、(2) apply A to B 「AをBに応用する」の2つのパターンがありますが、ここでも“apply {to B} A”という語順になっています。little の次の、(コンマ)に幻惑されないようにしましょう。このコンマは単に little と unimportant という2つの形容詞を並列しているだけであり、apply の直後の前置詞 to の目的語は things です。したがって applying の目的語は the same serious consideration となり、「多くの些細などうでもよいことに、重要な問題に向けるほうが賢明な思考をあてる」が正しい解釈です。

なお、consideration に続く節(接触節)の中で用いられている give は apply の言い換えであり、to vital matters の vital (重要な) は先ほどの little, important (些細な、どうでもよい) の反対語に相当し、さらに言えば、things の言い換えが matters になっていることも見られたでしょうか。



これが真相!

“動詞 + 前置詞 + 名詞 ...” と続くパターンで、後続にさらに名詞がきたら ⇨ “動詞 + { 前置詞 + 名詞 } + 名詞” と考える

訳例

1. 狼に出くわすのはただでさえ恐ろしいことであるが、自分の大好きなおばあさんが恐ろしい狼に変わってしまったことを知るのは、そうした状況に、自分が頼りにしていた人に対する信頼が突然なくなってしまうことから生ずる根本的な不安感を加えることになる。
2. 厄介なのは、多くの些細などうでもよいことに、重要な問題に向けるほうが賢明な、その同じ思考をあてる癖がついてしまっていることであるかもしれない。